

情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2025 年 3 月 12 日作成 第 5 版

研究課題名	出血性ショック症例に対する大動脈蘇生血管内バルーン閉塞 Resuscitative endovascular balloon occlusion of the aorta (REBOA) 留置下血管塞栓術の安全性および有効性の検証
研究の対象	2015 年 4 月 1 日より 2024 年 3 月 31 日までの間、当院で出血性ショック等を原因とする大動脈蘇生血管内バルーン閉塞術動脈塞栓出を受けられた方 または、出血性ショック等により経経皮的動脈塞栓術を受けられた方
研究目的 ・方法	出血性ショック症例に対し、現在の単独動脈塞栓に加えバルーンを留置する方法（大動脈バルーン遮断（REBOA）は救命率の上昇につながるが、予後に影響はないかを検証することを目的としています。 方法については過去のカルテデータから後述する情報を収集するのみであるため、新たにご負担いただくことはありません。
研究期間	西暦 2020 年 9 月 17 日（機関の長の許可日）～ 西暦 2026 年 3 月 31 日
研究に用いる 試料・情報の種類	観察項目（収集する診療情報） 1) 患者基本情報：年齢、性別、診断名、身長、体重、既往歴 2) 血液検査（血算、生化学検査） 3) 病因に関するスコア（外傷性の出血性ショックの場合は ISS） 4) 出血性ショックに至った原因（外傷性か非外傷性か） 5) 治療内容（投与薬剤、手術術式、IVR） 6) 転帰 7) 予後
本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。 ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話でお申出下さい。 また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。	
問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57 横浜市立大学附属市民総合医療センター放射線部画像診断室（研究責任者） 関川 善二郎 電話番号：045 - 261-5656（代表）	